民家研究の新しい手法の提案*

立 川 稠 士

1 はじめに

民家の軒の高さは時代が下るにつれて次第に高くなってきたことが認められている。建築学ではすでに相対的な建築年代の決定に軒の高さが利用されている¹⁾。一方、最近の村落では、個々の民家の外観において屋根の占める割合が、軒の高くなるのに従って減少してきている。新しい屋根材料の普及がそれに拍車をかけており、従来、村落にはありえなかったゆるい勾配の屋根や平屋根の民家さえも普通に見られるようになってきた。このような現在の村落を調査するとき、研究者の眼にうつる民家の側面は、そのほとんどが軒下の部分である。この軒下の部分を研究対象として、民家研究を試みた。

2 正面構成

1) 正面とは

島(1938, p. 153)によれば、日本民家の基本的な配置は次のとおりであるという。

自然条件などの制約がない限り、民家は敷地の北よりに建てられ、前庭を設ける。前庭には付属建物が散在している。母屋はふつう、ドマを、向かって右側に、床のある部分を左側に配している(右勝手)。また、出入口はドマに開いている。

民家の側面のうち、前庭に面した方を「正面」とい

うことにする(軒から上の屋根部と二階はしばらく考察の対象から外す)。正面は民家の4側面のうち、最も開放的な構造をもち、多彩な要素から構成されている。以下、筆者の見聞した範囲で、現在の村落にみられる民家を大きく3つに分け²⁾、大よそどのような要素から正面が構成されているかを示す。

(イ) 旧来の民家では、左から順に、トブクロ、床のある部屋が1~3(この部屋の前にはエンガワが付くことがあり、またアマド・ショージドがみられる)、出入口、ドマの側壁、などが並んでいる。

(ロ) 新築民家では、基本的な右勝手スタイルは変わらず、違う点はガラスド・ガラスマドが多くみられること、単なる出入口ではなくゲンカンがあること、ゲンカンの右がドマではなく部屋になっている場合が多いこと、などである。

(ハ) 改造民家は、主に、ドマ部が部屋になっていることが多い。

このように、建築年代の新旧や、家の大小にかかわらず、右勝手のスタイルで建てられている民家が、一村落のほとんどを占めていると考えられる。このことは、正面がどのような要素から構成されているかを指標にして調べれば、一村落に現存する民家のすべてを同一基準で分類できるということである。

正面は民家のなかで最も開口部の集中してみられる部分であり、その開口部をおおさまざまの建具につ

カベ
あるいは
戸袋

エンガワ

ヘヤ

出入口

ヘヤ

かつて口

付加的な土間部

図1 正面構成要素の配列—理念型

第1表 正面構成要素の集計表

家 屋 番 号	構 成 要 素															
	戸 袋 カ ベ	エンガワ			ゲンカン					かって口			土 ま か て 部	土 ま か て 口 部		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
1	+	-	+	+	-	-	-	+	-	-	-	+	-	-	-	-
2	+	-	+	+	-	-	-	+	-	-	+	+	+	-	+	+
3	+	-	+	+	-	-	-	+	-	-	-	+	-	+	-	-
4	+	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	+	-	+	-	-
5	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
6	-	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-	+	-	-	-	-
7	+	-	+	+	-	-	-	+	+	-	-	+	+	-	-	-
8																
9	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
10	+	-	+	+	-	-	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-
11	+	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-
12	+	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	+	+	-	-	-
13	+	-	+	+	-	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-
14	+	-	-	-	+	-	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-
15	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-	+	+	-	-	-	-
16	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
17	+	-	+	+	+	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
18	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
19	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-	-	-	+	-	-
20	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
21	+	-	+	+	-	+	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-
22	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-
23	-	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
24	+	-	+	+	-	-	+	+	-	-	+	+	-	-	+	+
25	+	+	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-	-	-	+	+
26	+	+	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
27	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	-
28	+	+	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-	-	+	+	-
29	-	-	+	+	-	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
30	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
31	-	-	-	+	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-
32	+	-	+	+	-	-	+	+	-	-	-	+	-	-	+	-
33	+	-	+	+	-	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-
34	+	-	+	+	+	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
35	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-	-	-	+	+	+
36	+	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-
37	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
38	+	+	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-	-	-	+	+
39	+	+	+	+	-	-	-	+	+	-	-	-	-	+	+	+
40																
41	-	-	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-	+	-
42	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
43	+	+	+	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	+	+
44																

家 屋 番 号	構 成 要 素															
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
45	+	+	+	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	+	+
46																
47	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
48	-	-	+	+	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-
49	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
50	+	-	+	+	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-
51																
52	+	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	+	+	-	-	-
52'	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
53	+	-	+	+	+	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
54	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	+	+	-	-	-
55	+	+	+	+	-	-	-	+	-	-	-	-	-	-	+	+
56	+	-	+	+	-	-	+	+	-	-	+	+	-	-	+	+
57																
58	+	-	+	+	+	-	-	+	-	-	-	-	-	-	+	-
59	+	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	+	+	+
60	+	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	+	+	-	-	-
61	+	-	+	+	-	-	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-
62	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
63 _a	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	-	-	-	-	-	-
63 _b	+	-	+	+	-	-	+	-	-	-	-	-	-	+	+	+
64	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	+	+	+	+	-	-
65	+	-	+	+	-	-	+	+	-	+	-	-	-	-	-	-
66	+	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	-	-	-	-	-
67																
68	+	+	+	+	-	-	+	+	-	-	-	-	-	-	+	+

いて、材料・様式・デザインなどをも検討することが可能になる。建具は最もかんたんに改造できる部分であり、しかもそのことが民家の正面形態に大きな違いを見せるので、建具のとりかえ・改造を調べれば村落のたえまない変化をもとらえることができる。

2) 正面を構成する要素とその配列

図1は、正面構成要素の配列の理念型³⁾である。①～⑯の番号は表1と共通であり、それぞれ民家の正面を構成する要素⁴⁾を示している。表1は、民家1軒ごとに、16の要素のどれがある(+)か、ない(-)かを記してある。それぞれの要素は内部の間取りを反映したひとまとまりをもって1要素とした。したがって①のように幅3尺でも1要素になるものもあり、②～④のようにエンガワのある部屋の数を要素数としたものもある(エンガワが1部屋分のときは――+, 3部屋分続いているときは――+, などと表示した)。

3 正面構成による民家分類の適用例

——宮城県山元町笠野における——

1) 調査地の概要

仙台東方の七が浜から南に、福島県にかけて長大な砂浜海岸がのび、その浜堤列上に点々と集落がつかっている。笠野は福島県境から4つ目の集落である(図2および3)。調査地は行政的には高瀬字笠野と高瀬字浜砂の2つの小字に分かれているが、5000分の1地図⁵⁾上でも、実際にもひとまとまりの塊状になっている。調査村象となる民家は70戸⁶⁾、調査は1972年晩秋に行なった。

2) 正面構成による民家分類

16の要素の有無をすべて用いて分類すると、類型数はぼう大なものとなる⁷⁾ので、ここではまず⑧の有無で分け(⑧-を記号Sで表示)、⑧+のものについて⑩、⑫、⑦、②、③、の5要素で分類した⁸⁾。この結果、現実には14類型がみられた(これを記号A~Oで示す。Iは記号として用いない)。なお笠野には、2階建の民家もあるが、それらも1階部分の正面構成のみで分類し、2A、2B、などと表示する。A・B・Fは2階に

のみ見られる類型で、結局、笠野の全類型は、2A・2B・2C・2F・2G・2H・C・D・E・G・H・J・K・L・M・N・O・Sの18類型となる(図4)。

3) 建具の材料

前述の類型わけの手法の応用として、建具材料の分析を試みた。表1はそれぞれの正面構成要素の有無を示しているだけで、それぞれの要素がどのような材料からできているかは考えていない。これに対し表2は、表1でプラスとされたらんに材料名を略称で記入したものである。

表3は②~⑩の12要素のうち、どの建具材料が何要素みられるかを集計したものである。建具と類型との関連をかんたんに考察しておこう。

(イ) 2B・2C・D・Gはサツが主である。

(ロ) 2A・2H・Hはサツとガラスドが混在する。

(ハ) 2F・J・K・Oはガラスドが主である。

(ニ) M・Nはガラスド、アマド、ウチアマドが混在している。

4) 1970年と1972年の比較

正面構成による類型化は、現地調査を行った場合しか使えないものではない。すでに調査された間取図が

図2 調査地 笠野

図3 笠野の村落構成(山元町役場資料による)

- I 農家類型 S: 専業農家 1: 1種兼業
2: 2種兼業 - : 非農家
- II 耕地別ランク(単位: 町) A: 3~ B: 2~3 C: 1.5~2 D: 1.0~1.5 E: 0.5~1 F: 0.3~0.5 G: 0~0.3 - : 非農家
- III 農業収入ランク(1970単位: 万円)
1: 0 2: 0~5 3: 5~20 4: 20~50
5: 50~70 6: 70~100 7: 100~150
8: 150~200 9: 200~300

図4 類型概念図

あれば、それから類型区分や建具の検討が行える⁹⁾。

役場に間取図を含んだ資料¹⁰⁾が残っていたため、これを用いて類型わけをした。図5では、役場資料による1970年の類型を斜線の左上に、今回の現地調査による類型を右下に記し、村落内のそれぞれの民家の位置に記号が記されている。わずか2年の間に、類型の変化した民家(新築¹¹⁾や増・改築が行われたもの)は20戸で、全戸数の28.5%におよんでいる(表4, 表5, 表6)。

新築の場合、M・Oが減り、2C・Cが増加しているのが目立つ。これは要素でみると⑩がほとんどの場合

加えられているのに対し、⑫をなくする傾向である。結局、1970～1972の2年間にみられた新築民家では、2C・Cが標準タイプとなっていることがわかる。

増・改築の場合には、⑫が加えられたものが多い¹²⁾。これに対し⑩が増えている例は少ない。この点新築の場合と好対照である。

5) 建具材料の変化

表7に建具材料の変化した¹³⁾。増・改築が行われた11戸のうち、建具材料にも変化のあったものが7戸あり、これとは別に類型が変化せず建具だけ変わったものが11戸ある(これらは2C・H・J・K・L・N・

第2表 建具材料の集計表

家屋 番号	構 成 要 素															
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
54	サイ		サ	サ			凸4	サ		サ		ガ	ガ			
64	カザリ マド		ガ	ガ			凸2	ガ	そでカベ コマド	ガ	カザリ マド	ガ	ガ			
34	サイ		サ	サ	サ		タイル 鉄平石	パネル ドア		サ						
18	サイ		サ	サ			タイル	バドア		サ						
27	カ		サ	サ			凸2	タイル サ		サ		ガ				
63	木製 サイジング	サ	サ	サ				ガ2 凹	サイ クイム	ガ						
5	カ		ガ	ガ			ガ4			ガ						
9	しろ かべ		ガ	ガ			ガ4			ガ						
20	しろ かべ		サ	サ			サ4	コマド		サ						
37	カベ		ガ	ガ			凸	ガ4		ガ						
19	カベ	ガ	ガ	ガ			凹	ガ4						さっかけ ガ		
23		ガ	ガ	ガ			ガ2 凹 戸アクロ ソデカベ									
35	戸 アロナシ	ヌレエン 内アマド		両トブ クロ			凹	ガ3						さっ カベ	かけ ガ	カベ
68	戸 タライタ	ガ	ガガ	両ト アクロ			カザリマド 凹	ガ4						カベ	ガ	カベ
21	カベ		ヌレエン 内アマド			ヌレエン 内ガラ		ガ2 凹	コマド カベ							

Oの諸類型である)。なおMはこの2年間には建具だけの变化は起らず、変るとすれば増築によって類型・建具とも変るか、古いMをとりこわし、新築するかのいずれかである。

建具材料の変化を具体的にみると、

- (イ) 建具材料の種類が減少するもの（ガラスド・アマド・イタドが用いられたものを全部がガラスドに、ウチアマドをサッシにした場合など）。
- (ロ) 建具材料の種類が増加するもの（すべてガラスドだったものをエンガワ部のみサッシに、すべてアマドだったものをエンガワ部をサッシ、ゲンカンをガラスドにした場合など）。
- (ハ) 種類の数に増減のないもの（すべてアマドだったものをすべてガラスドに、同じくサッシにする場合など）。

結局、この2年間の建具材料の変化からみると、ウチアマド→アマド→ガラスド→サッシの方向に変わっていることがわかる。また建具全部の材料を統一できない場合は、構成要素の番号の少ない方から多い方へ、すなわち、客間の方から土間の方へサッシ・ガラス

ド・イタドなどと並ぶことは注目してよい。

4 今後の課題—装飾について—

1) その実例

正面構成要素を用いた類型化、異なる年次の比較、そしてその応用として建具材料の検討を行ったが、民家の正面形態にはこれから研究されるべき面白いテーマがずいぶん多いように思われる。筆者が調査地で見つけたものを数例あげてみよう。

(1) 正面の凹凸、民家の正面は同一面上になく、凹凸がある。たとえば、ゲンカンは通例突出しているが、逆に凹んだ外観のものもある。エンガワ部の建具がアマドの場合は、調査者の見る正面はエンガワとヘヤを仕切るショージまで後退して、大きく凹んでみえるが¹⁴⁾、ガラスドやサッシの場合は反射する広い平面が形成されている。正面全体をみると、笠野の場合15の異なった凹凸のしかたが認められた。

(2) ゲンカン、ゲンカンの引戸には4枚戸・3枚戸などがみられ、ドアもあった。またソデカベのあるゲンカンもあり、ソデカベの腰にはタイルが張られたり、

第3表 建具材料別要素数と%

類	家 屋 番 号	要 素 数					%					類	家 屋 番 号	要 素 数					%				
		サ ッ シ	ガ ラ ス 戸	雨 戸	内 ア マ ド	カ 計 ベ	サ ッ シ	ガ ラ ス 戸	雨 戸	内 ア マ ド	カ ベ			サ ッ シ	ガ ラ ス 戸	雨 戸	内 ア マ ド	カ 計 ベ	サ ッ シ	ガ ラ ス 戸	雨 戸	内 ア マ ド	カ ベ
2A	27	5	1	0	0	0	6	83	17	0	0	0	J	2	5			1	6	83			17
	54	5	2	0	0	0	7	71	28	0	0	0		7	5			1	6	83			17
	64	0	7	0	0	1	8	0	87	0	0	12		12	6			6	100				
2B	26	6	0	0	0	0	6	100	0	0	0	0	K	60	2	3		1	6	33	50		17
2C	18	*5	0	0	0	0	5	100	0	0	0	0		16	5			5	100				
	30	5	0	0	0	0	5	100	0	0	0	0		19	5			5	100				
	34	*6	0	0	0	0	6	100	0	0	0	0		23	5			5	100				
	42	5	0	0	0	0	5	100	0	0	0	0		35	2		3	5	40		60		
	47	5	0	0	0	0	5	100	0	0	0	0		68	5			5	100				
	52'	5	0	0	0	0	5	100	0	0	0	0	L	17	5			5	100				
	53	3	3	0	0	0	6	50	50	0	0	0		29	2	2		1	5	40	40		20
	61	0	5	0	0	0	5	0	100	0	0	0	M	25	1		3	1	5	20		60	20
	62	5	0	0	0	0	5	100	0	0	0	0		28	1		3	1	5	20		60	20
2F	31	0	3	0	0	0	3	0	100	0	0	0		38	1		3	1	5	20		60	20
2G	22	5	2	0	0	0	7	71	28	0	0	0		39	1	4		1	6	17	67		17
2H	32	3	2	0	0	0	5	60	40	0	0	0		43	5			5	100				
	56	0	6	0	0	0	6	0	100	0	0	0	N	45	2	3		5	40	60			
C	5		5			5		100						55	1		3	4	25		75		
	9		5			5		100						1	3			3	100				
	20	5				5		100						3		1	2	3		33	67		
	37		5			5		100						4	2	2		4	50	50			
	49	5				5		100						11	2	2		4	50	50			
	65		5			5		100						21	1		3	1	5	20		60	20
D	63	3	2			1	6	50	33		17			36	2	2		4	50	50			
	13	2	3			5		40	60					52	2	2		4	50	50			
	33		2	2		4		50	50					58	4			4	100				
	48		1	1	2	4		25	25	50				59	2	2		4	50	50			
E	50	4				4		100						63b	1		2	3	33		67		
	15	5	2			7		71	28				O	66	4			4	100				
	6		5			5		100						14	2			2	100				
G	10		4	2		6		66	33					41	3			3	100				
	24	4	2			6		66	33														
	6		5			5		100															

上部にはコマドがあけられたりする。ドアのある民家では、正面に直角に、タイルを張ったカザリカベがみられた。またゲンカンのドマは、土・コンクリート・着色セメント(赤色がほとんど)・タイル・人造石・黒砂利流し込みなどの材料でできている。

(3) ガラスドのさん模様、ゲンカン、エンガワ部のガラスド¹⁵⁾のさんにさまざまな様式がある。大ざっぱ

にいてゲンカンにくらべてエンガワ部のほうが模様のバリエーションが少ない。

2) 展 望

上にあげたようなものは、大きくいて装飾という概念でとらえられよう。民家の外見のうち、正面はこのように装飾でおおわれる部分が最も多い¹⁶⁾。民家を正面形態から考えるとき、装飾は避けられない課題で

図5 正面構成による類型の変化(1970~1972)と戸数

第4表 正面構成の変化

類 型	1970~1972	
	1970	1972
2A	2 戸	3 戸
2B	0	1
2C	5	9
2F	1	1
2G	0	1
2H	2	2
2K	1	0
C	3	6
D	0	1
E	3	4
G	1	1
H	2	3
J	3	4
J'	1	0
K	6	5
L	2	2
M	13	7
N	12	11
O	6	2
S	6	7
?	2	0

あるので、今後のために、民家の正面における装飾について論じておきたい。

民家は、住人の生活の本拠であるから、そこで行われる機能はさまざまである。石毛(1971 p. 243)によれ

第5表 新築一覧表

家屋番号	類型の変化	減った要素	増えた要素
30	G→2C	②, ⑫	⑩
42	J'→2C	②, ⑫	⑩, ⑦
26	K→2B		⑩
49	M→C	②	⑩, ⑦
50	M→E	②	⑩
47	N→2C		⑩, ⑦
62	N→2C		⑩, ⑦
5	S→C		

第6表 増・改築一覧表

家屋番号	類型の変化	減った要素	増えた要素
64	2C→2A		⑫
22	2K→2G		⑫
15	K→G		⑫
20	M→C	②	⑩, ⑦
23	M→K		⑦
63	M→D		⑩
2	N→J		⑫
1	O→N		③
58	O→N		③
6	O→H		⑫, ③, ⑦
46	O→S		

ば、日本某家の例¹⁷⁾として、睡眠と休息・排泄・入浴と行水・化粧と着衣・性交・育児と教育・洗濯・炊事・食事・家財管理・接客・信仰・隔離・知的活動・娯楽・美的活動・隠退、が数えられている。

筆者は、この中で接客という機能に注目したい。この機能だけは、他の機能とちがってその家の住人だけの行動で完結せず、外から訪問者がこなければならたない。ところで外からその家を訪れてくる訪問者の目に最初にうつる所が正面である。こうしてみると民家の正面に装飾が集中することの意味はあきらかである。正面の装飾はその民家の接客機能を形態的に分担する部分として存在しているのである¹⁸⁾。

さて、村落生活において、もっとも普通の訪問者は近隣の住人にほかならない。したがって、正面の装飾はその家の住人独自の表現という面ばかりではなく、近隣の住人の眼によって表現が制約されていることに注意しなければならない。

民家の正面の装飾(あるいは正面全体)にはこうして、村落の構成員相互の諸関係の一端があきらかに反映されていると筆者は考えている。

第7表 建 具 材 料 変 化 表

類 型	ま た は	そ の 変 化	家 屋 番 号	旧						新						備 考
				サ	ガ	ア	ヌ	カベ	計	サ	ガ	ア	ヌ	カベ	計	
2 C			53		$\frac{6}{100}$				$\frac{6}{100}$	$\frac{3}{50}$	$\frac{3}{50}$				$\frac{6}{100}$	
2K→2G			22			$\frac{5}{100}$			$\frac{5}{100}$	$\frac{5}{71}$	$\frac{2}{28}$				$\frac{7}{100}$	新のガラスのらんが増築部
2 H			32			$\frac{5}{100}$			$\frac{5}{100}$	$\frac{3}{60}$	$\frac{2}{40}$				$\frac{5}{100}$	⑮ イタド→ガ戸
			56			$\frac{6}{100}$			$\frac{6}{100}$		$\frac{6}{100}$				$\frac{6}{100}$	
M→C			20			$\frac{5}{100}$			$\frac{5}{100}$						$\frac{5}{100}$	
M→D			63			$\frac{5}{83}$		$\frac{1}{17}$	$\frac{6}{100}$	$\frac{3}{50}$	$\frac{2}{33}$			$\frac{1}{17}$	$\frac{6}{100}$	
H			10		$\frac{3}{50}$	$\frac{2}{33}$		$\frac{1}{17}$	$\frac{6}{100}$		$\frac{4}{66}$	$\frac{*2}{32}$			$\frac{6}{100}$	* ガ戸が付加
N→J			2		$\frac{1}{20}$	$\frac{*3}{60}$		$\frac{1}{20}$	$\frac{5}{100}$		$\frac{5}{83}$			$\frac{1}{17}$	$\frac{6}{100}$	* イタ戸含む
J			12		$\frac{3}{50}$	$\frac{2}{33}$		$\frac{1}{17}$	$\frac{6}{100}$		$\frac{6}{100}$				$\frac{6}{100}$	
K			16			$\frac{*2}{40}$	$\frac{3}{60}$		$\frac{5}{100}$	$\frac{5}{100}$					$\frac{5}{100}$	* イタ戸
			19			$\frac{*2}{33}$	$\frac{3}{50}$	$\frac{1}{17}$	$\frac{6}{100}$		$\frac{5}{100}$				$\frac{5}{100}$	* イタ戸
M→K			23			$\frac{*1}{17}$	$\frac{3}{50}$	$\frac{2}{33}$	$\frac{6}{100}$		$\frac{5}{100}$				$\frac{5}{100}$	* イタショージ戸
L			17		$\frac{2}{50}$	$\frac{2}{50}$			$\frac{4}{100}$	$\frac{5}{100}$					$\frac{5}{100}$	
			29			$\frac{4}{100}$			$\frac{4}{100}$		$\frac{2}{40}$	$\frac{2}{40}$		$\frac{1}{20}$	$\frac{5}{100}$	
O→N			1		$\frac{2}{66}$	$\frac{1}{33}$			$\frac{3}{100}$		$\frac{3}{100}$				$\frac{3}{100}$	* ショージ戸
N			21			$\frac{*2}{40}$	$\frac{2}{40}$	$\frac{1}{20}$	$\frac{5}{100}$		$\frac{1}{20}$		$\frac{3}{60}$	$\frac{1}{20}$	$\frac{5}{100}$	
O→N			58		$\frac{3}{100}$				$\frac{3}{100}$		$\frac{4}{100}$				$\frac{4}{100}$	
O			41			$\frac{*3}{100}$			$\frac{3}{100}$		$\frac{3}{100}$				$\frac{3}{100}$	* イタ戸含む

上段・要素数
下段・ % 旧：1970年 新：1972年

この論文をまとめるにあたり、指導・助言をいただきました東北大学・東京都立大学の諸先生・諸先輩に厚くお礼申し上げます。また、現地調査にご理解を示され、協力下さった笠野の皆さま、山元町役場の方がたに深く感謝いたします。 (1977. 8. 20 受理)

注

- この論文は、筆者の東北大学地理学教室修士論文(1973)：民家の形態分析の一部を要約・加筆訂正したものである。

- 1) 民家のみかた調べかた (1967, pp. 18-20) にくわしい。
- 2) 杉浦 直(1973): 農村集落における農家の付属建物について, 東北地理 25-3, 145~152 では, 建築年代を指標に農家を旧農家・旧新築農家・改築農家・新築農家, の4つに分けている (p. 147) が, ここではより簡略に3つに分けた。
- 3) これは後で述べる笠野の事例から抽出されたもので, 他の村落で適用できるかどうかの検証はなされていないが, おそらく大きな変更なしに適用可能であると考えている。ここに示した①~⑯の要素をすべて備えた民家はあり得ず, この図はある村落における民家の正面構成要素の, いわば最小公倍数とでもいうべきものである。
- 4) ① カベまたはトブクロ(巾3尺) ②~④ エンガワ付きのヘヤ ⑤ エンガワなしのヘヤ ⑥ 出入口との境のないヘヤ(左) ⑦・⑧ 出入口との境のないヘヤ(右) ⑨ ヘヤ(出入口の右) ⑩ かって口との境のない左壁 ⑪ かって口 ⑫ かって口との境のない右壁 ⑬ 付加的なドマ入口の左壁 ⑭ 付加的なドマ入口 ⑯ 付加的なドマ入口の右壁
- 5) 5000分の1国土基本図, X-RE 51 (1965) なお, 浜砂の集落は5万分の1地形図, 角田(明治41年測図, 1色)には示されていない。
- 6) 住民票によると68戸であるが, そのほかに調査時点で新築中のもの1戸と寺の庫裡1戸を加え, 70戸を調査対象とした。
- 7) 理論的な総類型数は, $2^{16}=65536$ 。
- 8) 5要素の有無による理論的な総類型数は, $2^5=32$ 。
- 9) この場合, 間取図の正確さに左右されることはいうまでもない。
- 10) 山元町役場蔵, 家屋に課税するための資料である。この間取図は1970年の時点で整備されていること, 内容も建具材料に至るまで明確に記入されていること, の2点で十分比較に耐えうるものである。
- 11) ここでいう新築とは, 古い母屋をとりはらった跡に建てるものをさす。
- 12) 出入口がひとつの場合は⑧+, ふたつの場合は⑧と⑨+となるようにきめた。このため, ここでいう⑨の付加は実際はかって口の増設ではなく, エンガワを一部改造してゲンカンを設置したことであるが, 表示上では不明確となっている。
- 13) 新築の場合は当然建具も一新されるが, ここでは考察を省略した。
- 14) 風雨のひどくない限り, 昼にはアマドを開け放すからである。
- 15) ここではサッシを含んで考える。
- 16) 他には屋根の棟瓦や破風がある。
- 17) ここでは東京近郊の中小都市に居住する地方公務員の住居が例示されている。
- 18) 4-1) の(㍑)・(㍑)に示したものはあきらかに装飾であるが, (㍑)のような正面全体の形態もひろい意味で装飾の概念にふくめられると考える。

文 献

- 文化庁 監修(1967): 民家のみかた調べかた 第一法規
 石毛直道(1971): 居住空間の人類学 鹿島出版会 SD選書
 島 之夫(1938): 日本民屋地理 古今書院

A New Technique for House Type Study

Shigeo TACHIKAWA

Japanese houses have elevated their eaves (*Noki*) with the passage of time, and the side has gradually become visible easily. The writer tried to classify the house type according to front side form, which is facing to the frontal space (*Niwa*) and exposed mostly.

The writer surveyed the houses in autumn 1972 at Kasano, Yamamotomachi, Miyagi prefecture, one of small settlements on sand dune.

From the observation on the front side form of all houses in this settlement, 16 elements of the front side form were picked up. The elements (1) to (16) are arranged left to right on the front. The surveyed houses have some of these elements, and according to their elements, they are denoted by the column of 16 plus or minus signs (Table 1). These columns are typological basis.

There are so many types in this way. Therefore some elements are selected for easy typifying. In Kasano, the writer selected 6 elements, and gave 18 types. The columns of 6 plus or minus signs are transformed to alphabetical denomination A to O (Fig. 4).

The front side, the most open side of the houses, is sheltered by window or door. We can add the window or door materials such as *Amado*, *Garasudo*, *Sasshi* etc. to the elements of the front side form.

Further, we can use not only actual front side form but also of the former house plan. Thus, we can compare the actual houses with the former houses recorded in the same settlement. The writer compared those of 1972 and 1970 (fig 5), and recognized that 28.5% of all houses in this settlement changed among A to O types.